



フレンド会報 26号

300校達成も夢じゃない!!

AEFAの新しい挑戦：充実したプロジェクトの南振と丁寧な
フォロー事業の推進が指されました。

今後10年-20年 活動と継続する為の基盤整備の年でもあります。
その為には、仲間＝会員＋支援者の拡大・強化が
必要です。皆様、是非ご協力下さい。楽しい、有意義な人の
為にこの活動と一緒に楽しみましょう。

AEFA理念（三層構造理念）が皆様の共感を得て、支援の
リポーターも増えました。現地の住民参加に加え、日本の支援者
参加が進展し、AEFAの特徴が一層明確になっています。
有難いことです。今後は参加型の特徴を更に推進し、
国内事業の充実を挑戦したいと思っています。皆様もぜひ
参加して下さい。

私事で恐縮ですが、昨年11～12月にかけての長期出張の折に、
友人との飲み会で誤飲して膿胸と発症。約1ヶ月（生後初めて）
の入院生活。でも皆様の祈りで元気になりました。
退院後もう既に3回、海外出張し、南校式もやってきました。
健康とは有難いものでですね。しっかりと備けと天命でしょう。
心ワクワクの毎日です。

2018年度も合計16校建設出来そうです。2019年末には300校
達成も夢ではなくなりました。300校記念校は会員の皆様と
一緒に建設した学校にしようかと夢です。

谷川 洋



谷川理事長の「学校づくりノート」 見せちゃいます!



『奔走老人』でご紹介した理事長の「学校づくりノート」。もっと見たいという声にお答えして、少しだけ公開します。

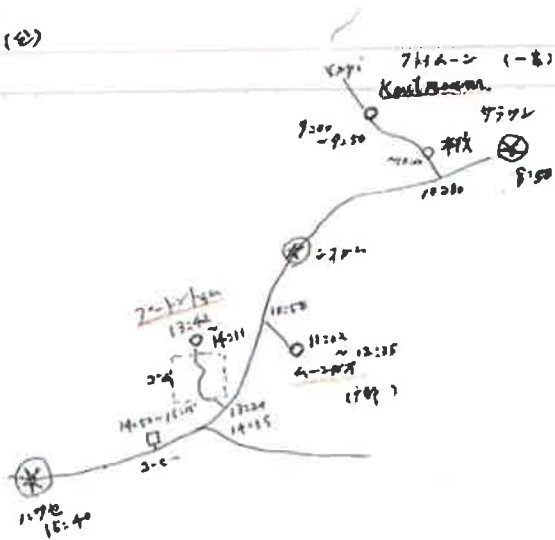
理事長の出張は過酷です。ある時は石ころだらけの山道をバイクの後ろに乗って、またある時は雨季の水田地帯をトラクターで…と、あらゆる交通手段を使って、山奥に住む子供たちのもとへ向かいます。もちろん地図なんてありません。Googlemapを使えばいいと思われるのですが、電波が届かないんです。たとえ使えたとしても、多くの村は掲載されていません。

そんな中、どうやって学校建設の場所を決めるかという、自分で地図を描くんです。バイクやトラクターに乗りながら目印までの時間を測り、だいたい距離を計算して地図を作ります。そうやって描かれたのが、ノートの上半分にある二つの地図。ラオスのクムーン小学校建設は、このメモから始まりました。

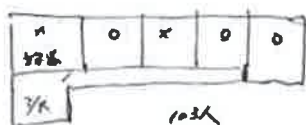
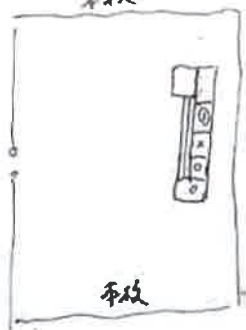
他にも現地で得た情報、先生やNGOの方と話し合ったこと、思いついたアイデアなどを書き込み、より良い学校づくりに役立てています。



9/11/14 (12)



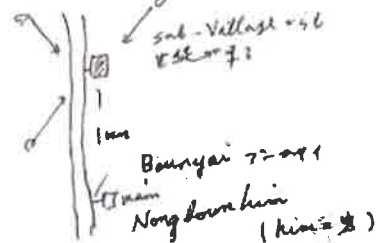
<カムーン>
本校



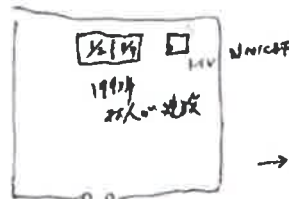
9/11/14

Koutmouen station (9:10~9:40)

• トラクター車道 14km 15分程度(車い) Vapiの町で main road 沿りの小学校

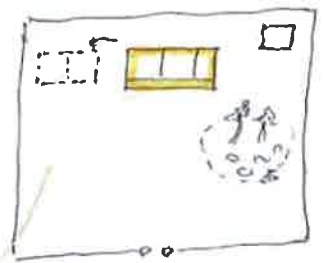


Main road 沿りの小学校 15分程度(車い) 過去に危険 打工人 653人 (11+1. 92人)



1	28
2	23
2	19
4	15
85	

Teacher 2人



2.5 or 3.0 R only →

人数 5/10 4/10



ラオスの現場から ～ 村と学校の協力関係

AEFAプロジェクト対象校の、村と学校の相互協力例をご紹介します。
学校プロジェクトにおいて、コミュニティの理解と協力はとても大事で、欠かせないものです。

チャンパサック県 ファイルーシ小学校

- ・建設資金として、各家庭から35,000KIP(約500円)を協力。(少数民族の家庭は除く)
- ・新年度がはじまる9月に、村人が学校敷地内の清掃と整備、壊れてしまった机や椅子があれば、修理を行う。
- ・校舎は、村の集会所としても活用されている。
- ・先生と生徒は、村のお寺の掃除をしたり、道路のゴミを拾うなど環境美化に協力している。

サラワン県 ドンニャイ小中高校

- ・新校舎建設時、旧校舎を取り壊さず、移動して再活用。校舎のお引越しを、村人たちがお手伝い。
- ・日本からのゲストが訪問する際は、各家庭よりもち米や野菜や卵1個など食材を協力したり、調理を手伝う。
- ・ボランティア先生(教員資格を持つが、予算不足のために無給で勤務)に、村からお給料代わりとなるお米を支援。
- ・村の伝統的行事に、先生たちもお手伝いする。



村人手作りのご馳走



村の大きな協力があって、建設&交流プロジェクトが実現できます。



ベトナム 顔の見える・手触り感のある交流

昭和小学校

毎年5月の「ベトナムDAY」。今年は、ベトナムからの留学生LeNgocBaoViさんが、全校児童に出前授業を行いました。Viさんのお母さん手作りの真っ白なアオザイ(民族衣装)に身を包み、“昭和小学校からの支援はどのように届けられ、役立てられているか？”“日本に留学して、世界に出て、気づいたこと・大事なこと”を想いを込めてお伝えしました。



給食もベトナム料理！

ブライتكッズガーデン

北九州市「ブライتكッズガーデン」と、バクザン省カオロイ小学校・幼稚園の交流がはじまりました。ブライتكッズガーデンでは早速、ベトナムのお友達を知るための「出前授業」や、生春巻きをクッキング。美味しく&楽しく、ベトナムを体験しました。



はるまきの皮って、ぱりぱりして紙みたい。おコメからできているんだね。

おいしいよ！



ゴーコン小学校

先生と子供たちが、PCを活用して調べた日本語と絵で、「ベトナムの四季」を紹介する交流作品をつくりました。「台所の神様の日」「餅菓子の日」「お医者さん&看護師さんの日」など、日本とちがう行事がたくさん。

さいたま市植水小学校にお届けします！



- 1月 ●ベトナム・ボーゴアン小開校式(23日)
- ベトナム・バンビエン小開校式(23日)
- ベトナム・ブクトラン小開校式(24日)
- ベトナム・バータン小開校式(25日)
- タイ・ラオス出張(26日～2月8日)
- タイ・クンメーナイ小学校開校式(27日)
- 2月 ●ベトナム・ホイアン出張
- 3月 ●第38回 理事会(2日)
- 第11回 社員総会(17日)
- ラオス・ファイルーシ小学校開校式(27日)
- 4月 ●田中富美子入局
- ラオス役人・NGO代表一行来日(10-15日)
- ラオス・ファイメサン小開校式(21日)
- ラオス・ナムサイロム小開校式(21日)
- 5月 ●AEFA交流・出前授業講師団の集い(19日)
- 6月 ●第39回 理事会(7日)

AEFA新メンバーを紹介します！



理事 横江 友則 (株式会社大阪メトロサービス 常務取締役)

「偶然が重なり、ラオスの学校を支援・訪問したことが人生の転機に。これからは理事として、AEFAの活動を支えます。“関西支部”の仲間は、“子供たちのためにACTIONしたい”という思いの強い、大変気持ちのいい人たち。みなさんと一緒に活動できることを楽しみにしています。」



理事 溝辺 裕 (イー・ガーディアン株式会社 専務取締役)

「仕事で長年タイにお世話になってきたので、アジアに恩返しをしたいと思ったことが、AEFAにかかわるきっかけです。これからのアジアと日本の関係に、大きな未来を感じています。活動を通して、次を担う若い世代とともに成長していきたい。」



<事務局> 田中 富美子

立教大学21世紀社会デザイン研究科を修了後、実践の場として入局。海外駐在等ビジネス経験を活かし、プロジェクトの棚卸・見直しを行いつつ、よりAEFAならではの事業を作るべく日々努力中。



監事: 廣部 武
(元 株式会社第一勧業銀行)

理事長の大学ゼミ時代からの友人。クールな口調の中に、熱い思いを秘める。事務局を強力にバックアップ。



専務理事: 佐川 旭
(佐川旭建築研究所代表、一級建築士)

AEFA設立メンバー。

ラオスの校舎に、風と光が入る「二重屋根」スペックを設計。福島県飯館村 村づくりアドバイザーとして、TOKYO2020 ラオスとのホストタウン交流を目指す。



理事: 亀井善太郎
(PHP総研主席研究員
立教大学大学院特任教授)

「政策シンクタンクと大学で研究と教育をしています。現地の子どもたちの未来のため、そして、日本の思いを伝えるため、引き続き、がんばります。」



理事: 坪井未来子
(ベトナム語通訳・翻訳者)

AEFA設立メンバー。現在、2児の子育て中。学び合いプロジェクト(学びの共同体)などソフトの活動も取り込んでいきたいという野望を持っている。



インターン:
根本 直哉
(東京大学 2年)

中学時代にAEFAとともに取り組んだワンコインスクールプロジェクトをきっかけに開発教育の道へ。「大学で理論を学び、AEFAで現場を学んで将来に生かしたいと思います」

<事務局からのお知らせ>

- ◆専務理事 石塚勝巳、理事 石原拓一郎は退任。参与として協力します。
- ◆山川香は、2017年12月末日退職いたしました。
- ◆今年のAEFAフォーラムはお休みし、来春開催する予定です。

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。



ベトナム: Viet-Nam Assistance for the Handicapped (VNAH) / Saigon Children's Charity (SCC) / Research and Communication Centre for Sustainable Development (CSD)

ラオス : Association for Community Development (ACD)

タイ : Raks Thai Foundation (Care Thailand)

ベトナム民間企業 学校建設を協力!

👉 両親への親孝行の為

昨年ご縁があり、AEFAの谷川と若いベトナム出身の社長さんと出会いました。まさか、彼もドンズー日本語学校のOBです!



両親の出身地であるベトナムのゲアン省で学校を建てたいという思いを実現まで話が進んでいますから!

👉 ゲアン省で学校建設



今年2月にゲアン省で3か所の学校を視察してきました!

あまりにも遠隔地のため、初の学校泊まりの視察です。そして、AEFAで数年ぶり再びゲアンで活動するため、様々な議論を経た結果、ゲアン省で学校を建設することが決定しました!

Play, Learn & Grow 🔄



ベトナムで有名な「ホーチミン経済大学」の教授・学生たちが運営するボランティア団体です。

「健全な成長を子供へ」というミッションを掲げ、2008年から創立されたPL&Gは、現在国内外の資金を集め、孤児、スラム街の子供から山間部、災害地の子供まで様々な面で脅かしている子供達へ支援活動を行っています。

👉 <http://play-learn-grow.vn/>

民間初! 日越協力 プロジェクト



2016年の初視察に撮ったTRA LENG小学校の生徒の寮の写真

冬服で築いてきた信頼関係から現 地主体の「寮づくり」へ

学校建設を見送られたきっかけから

ベトナム中部QUANG NAM省の山間部にある最も貧しい地域であるナンチャミ。ここでは、2016年にはAEFAが視察しに行ったのですが、政府関係、現地パートナー不在等、色々課題が残り、学校建設の提案は見送られました。

しかし、課題解決の最初の一步として、ナンチャミにあるTRA LENG小学校と信頼関係を築こうと考え、服を送る「暖かい冬プロジェクト」を2017年3月から行っています。

日越の青年達がプロジェクトを共に

2月のベトナム出張中に、PL&G (左記参考) から突然のメールが来ました!

「ナンチャミの生徒の為に、新しい寮を建てたいです。ナンチャミの小学校を支援していると聞き、是非今後ご協力を頂けたらと思います」。。。と丁寧な組織紹介と企画書まで送られてきた。

初めてベトナム団体から申し出を受けた案件として、日本の方とベトナムの青年と共に寮を建て、現地人が自分たちで責任を持って、フォローアップ事業を行うという意味から考えると、奉仕事業の真の成果だと信じ、今後もこのようなモデルをより広げられればと思います。

特別寄稿

私とベトナムの四半世紀

坪井 未来子 (AEFA 理事)

2018 年は、日本ベトナム外交関係樹立 45 周年。私とベトナムの関係も、ちょうど 25 年になります。この四半世紀、以下の四つの視点からベトナムを眺め、人生に必要な多くを学びました。



■ 留学生の目

初めてのベトナムは 1993 年、社会主義色濃いホーチミン市への短期留学。すべてが新鮮でした。道路のあちこちに食べ物屋があり、皆が楽しそうに食べる姿や多彩な食材。「私たちは同じアジア人」と語り、親しくなったらとことん優しい友人たち。中でも心に残ったのは、南北分断後に南ベトナムという国家を失った人々の姿です。歴史のボタンのかけ違いで、日本が辿っていたかもしれない道。他人事とは思えませんでした。この時の強烈な印象が、今日までベトナムとかかわり続けている原動力かもしれません。

■ 通訳者の目

その後 10 年間、通訳としてベトナムの方々と日本全国を訪問し、日本の地方が持つ底力、人材の豊かさを知りました。ベトナムの皆さんは、小学生が班を作って整然と通学する様子、給食の配膳や片づけ、教室からトイレまで掃除する姿などに驚嘆していました。この時期はいわば「日本再発見」の時代でした。

■ NGO スタッフの目

14 年前から加わった AEFA の活動で訪れたベトナム各地で目にしたのは、想像を超えた格差でした。教育インフラだけ見ても、冷暖房完備、視聴覚室や体育館が備わった都会の学校がある一方、雨風さえしのげない茅葺き屋根に柱だけの山岳地の校舎も多数ありました。そんな状況でも常に前向きで勉強熱心な先生や子供たちとの出会いには、いつも強い感銘を受けます。また若い世代、両国の大学生が、それぞれの思いから AEFA の活動にかかわってくれることは大きな喜びです。

■ 妻、母としての目

家庭を持ち、二人の子供が生まれると、最大の関心事は「安心安全」となりました。二人とも生後半年ほどで夫の駐在先だったハノイに連れて行きましたが、「安心安全な水や空気」をどう確保するか、悩みながらの生活でした。結局はお金で解決する部分も多くあり、ここでも格差を実感しました。今、ベトナムでは「持つ者」と「持たざる者」の隔たりが問題となっています。

このような四半世紀を経て思うのは、私たち大人は相変わらずとても非力で、子供たちに本当の意味での「教育機会の平等」を与えることはなおも難しいということ。それでも、子供たち全員が、自らと故郷に誇りを持ち、少しでも輝きを増す手伝いをしたいとの思いで、AEFA の活動を続けています。